

楷

第六十二号

岡山大学
附属図書館報
OKAYAMA UNIVERSITY
LIBRARY BULLETIN

KAI
No.62

2016
FEBRUARY



<写真>

あくら

大木ニシテ枝葉繁シ葉厚クシテ
山茶花ニ似テ鋸齒ナシ四時葉アリ
夏細白花ヲ開キ冬實熟シテ
甚赤ク梅モドキノ大サノ如シ

「備前国備中国之内領内産物絵図帳」（岡山大学附属図書館所蔵池田家文庫より）

— 目 次 —

- 「知好楽のすすめ」（附属図書館長 沖陽子） p.2
- 電子ジャーナルの今後について（附属図書館副館長 五福明夫） p.5
- マスカット p.7
中央図書館リニューアル後の利用状況、
返却日事前通知メール送信開始および督促メール送信時間変更 ほか
- 会議・研修・編集委員から p.12

「知好楽のすすめ」

沖 陽子

はじめに

先日、「植物は<知性>をもっている」(ステファノ・マンクーズ著)という面白いタイトルの書物を読み切りました。著者は「知性とは何か」を問い、植物をも含めた広い知性概念について考えています。そして、知性は「問題を解決する能力」と定義した上で、植物の知性を紹介しています。私は、「雑草学」を専門にしており、雑草の知性を以前より認識していますので違和感はありませんが、一般には受け入れられない考えです。

さらに、最近では経験則に則った人工知能の発達が目覚ましく、人間が独占していると思われる知的な特徴を機械が真似て、その能力を人間以上に向上させる日が近づきつつあります。

「知」とは、物事を認識したり判断したりする能力、知恵です。「智」となると、事物や道理を認知・判断する精神作用となるようです。一般に図書館は「知的成果の蓄積と発信の場」であり、岡山大学附属図書館も「高度な知の創成と的確な知の継承」を使命と謳っています。我々は、知性を他の生物と区別する拠り所として捉えるより、また人工知能と競うより、人間に備わっている知性を図書館で醸成させる戦略をとる方が得策と思われまふ。

「知好楽」の概念

「論語」は孔子が書いた本ではなく、弟子達との対話を後生になって編纂したものです。原稿用紙でたった35枚の分量ですが、なぜか2500年前の言葉が今も我々の心に響きます。孔子は、一見、聖人君子と思われているようですが、実は野望を持ちながらも挫折を繰り返した波乱の人生だったそうです。それ故、「論語」の言葉は今の世にも息づいているのでしょう。その「論語」の中では「知」や「知者」への言及が多く、孔子の生きるための根源的なテーマの一つであったようです。第2講「致知」の雍也編第六に「子曰く、これを知る者はこれを好む者にしからず。これを好む者はこれを樂しむ者にしからず」、すなわち「知好楽」という一節があります。物事をただ知識として知っている人は、それが好きな人にはかなわない。しかし、それが好きだという人も、それを心から楽しむ人の境地の奥深さには及ばないという意味です。平成25年、附属図書館は改修工事に伴い、集積された知を教育に活用する空間と、多文化・異分野・異世代の人材が集い活躍する場を整備して、グローバル社会を生き抜く人材輩出のためのリベラルアーツを醸成する館に改革しました。その「知の交流拠点の形成」のコンセプトとして「知好楽」を導入しました。

「知好楽セミナー」の開催

私の書棚に黄ばんだ一冊の本が収められています。山下孝介編「知好楽」昭和44年発行。木原均博士と共に、小麦の起源を極められた山下孝介先生が主催された、趣味と教養の談話会の講話が満載された書籍です。奥田東先生の前書きに始まり、京大の著名な先生方の名前が連なり、当時、入学後間もない学生であった小職への山下先生の自筆の添え書きがある「お宝」です。岡山大学附属図書館の将来像を描く責務を担った時に、この本を静かに手に取りました。

今、まさに「知好楽セミナー」が役立つ時代が再来したと感じました。

そして、「図書館サービス検討WG」の議を経て、平成26年10月に岡山大学における「知好楽セミナー」が産声をあげました。グローバル化時代を生き抜くための「知」と「心」を育む交流をコンセプトとして、図書館が自らの知的空間を活用して、学生に向けて企画・展開する独自のプログラムと銘打ちました。「スキル編：社会で生き抜くために必要な「知」の活用技術を磨くことを目的とする様々な研修会」と「談話会編：多文化・異世代・異社会との交流を通して「知」を「好」み、さらに「楽」しむ境地へと導くことを目的とする様々なイベント」を区別して開催しています。当世の学生気質を反映して、スキル編はすぐに定員が埋まりますが、談話会編を楽しむまでには少し時間がかかりそうです。しかしながら、学外から招聘した論語の先生や、高名な縄文造形家が学生達に熱弁をふるってくださったお蔭で、参加者は異分野の交流を通して知を好んでくれたようでした。

平成27年度は趣向を変え、招聘講師の年齢を下げ、30代前半で自分の人生をしっかりと切り開いた若者層と学生達との出会いを実現させました。これは好評でした。セミナー後もソーシャルネットワーク



中央図書館2F「サルトフロresta」で開催された知好楽セミナー



第2回知好楽セミナー：記念すべき最初の談話会編のポスター

附属図書館で開催された「知好楽セミナー」(平成26年度・27年度)

	テーマ	開催日	開催場所
第1回	「若手研究者のための英語論文セミナー 理系編」(スキル編)	H26.10.29	中央図書館3Fセミナー室
第2回	「大学生と論語」～なぜ論語の素養が求められるのか～(談話会編)	H26.11.7	中央図書館1Fラーニングcommons
第3回	「縄文スピリットから始まる新しい創造」(談話会編)	H26.12.18	中央図書館1Fラーニングcommons
第4回	「レポートの書き方ワークショップ」(スキル編)	H27.1.19	中央図書館3Fセミナー室
第5回	「連携講座 新しい働き方 第1回 小さな村から世界へ」(談話会編)	H27.6.24	中央図書館2Fサルトフロresta
第6回	「連携講座 新しい働き方 第2回 誰にでもできる！～田舎で始める小さな暮らし～」(談話会編)	H27.7.1	中央図書館2Fサルトフロresta
第7回	「学術的文章の書き方」～アカデミックライティングワークショップ～(スキル編)	H27.9.24 ～25	中央図書館3Fセミナー室
第8回	「違いの分かる岡大生になろう① こだわりのマスターが語る 奥深き珈琲の世界」(スキル編)	H28.1.20	中央図書館1Fラーニングcommons

グサービスで連絡を取り合ってコミュニティ形成を行っているようです。つまり、知を楽しむ境地に近づきつつあるようです。さらに、第8回には「違いの分かる岡大生シリーズ」を始めました。珈琲の入れ方の実演・演習付きでしたので満足度は高く、申し込みは数時間で定員超過の様相を示しました。これからも、学生の希望に沿ったテーマで知好楽セミナーを継続していきます。

おわりに

平成28年4月より、岡山大学は「60分授業・四学期制」が始まります。実質的な正規の授業が保証されると同時に、単位取得のための学修ではなく、知を楽しむ課外活動が行える機会も多くなると思われます。従って、今後は学生主導型の「知好楽セミナー」の企画と実施を期待しています。45年前に「知好楽」を教わった一学徒が、今、ようやくその意味がわかり始めてきました。人間教育には時間の積算が必要です。図書館はより多くの学生に、より早い時期から知を好み楽しむ機会を創り、知の醸成に貢献していきたいと考えます。

(おき・ようこ 附属図書館長)



「子曰く、これを知る者はこれを好む者にしかず。
これを好む者はこれを楽しむ者にしかず」

「論語」雍也編第六より

電子ジャーナルの今後について

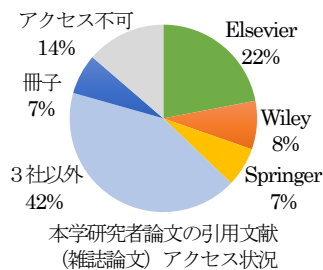
五福 明夫

本学では、平成 27 年 4 月から、Elsevier 社の電子ジャーナル契約を、パッケージ契約からタイトルごとの個別契約に変更することになった。本稿では、これまでの経過を整理すると共に、1~2 月に実施したアンケート調査の概要と、今後の見通しについて報告する。

1. これまでの電子ジャーナル : 電子ジャーナル化による学術情報環境の全学的整備

岡山大学では、学術情報環境は重要な研究基盤の一つであるとの認識のもと、学術雑誌の共通経費化、電子ジャーナル化を進める事により整備が進められてきた。特に平成 22 年度 (2010 年) からは、全学的な予算措置 (学術情報基盤経費) により、Elsevier, Wiley, Springer の大手 3 社の電子ジャーナルパッケージ契約を中心として、本学の研究の多様性に合わせた幅広い分野の電子ジャーナルの導入が図られ、高い水準の整備が行われてきた。

右のグラフは、本学の研究者が 2014 年に執筆した学術論文に引用されている文献 (雑誌論文) が、昨年度の学術情報環境下でどの程度アクセスできていたかをサンプル調査したものである。結果は 86%で、本学の研究の多様性という特殊事情を考え合わせると、整備水準の高さを示していると考えられる。



2. 現在の電子ジャーナル : Elsevier 社電子ジャーナルの契約変更

しかし、平成 25 年に状況が一変した。為替レート変動による電子ジャーナル価格の高騰と、税制改正により電子ジャーナルに消費税が課されることになったことから、整備水準の維持が困難な見通しになった。執行部で検討いただいた結果、平成 26 年 (2014 年) 分については整備水準を維持していただけることになったが、平成 27 年に向けて抜本的な対応策を検討することになった。

平成 25 年 11 月、附属図書館長を委員長とし、研究科長、副研究科長を委員とする電子ジャーナル等経費検討委員会が設けられ検討が開始された。翌年 3 月には提言がまとめられ、本学の研究活動にとって学術情報環境の維持が重要であるとの認識のもと、対応策として、(1) 部局や個人の経費負担を検討すること、(2) 大手パッケージも削減対象とすることが提案された。

平成 26 年 4 月の役員政策会議において、この提言が審議され、学術情報環境が重要であるとの認識は共有するものの、毎年運営費等交付金が減少する現状に鑑み、平成 27 年度 (2014 年) 分の学術情報基盤経費額は現状維持とすることになった。経費検討委員会では、これを受けて引き続き検討を進め、Elsevier 社の契約をパッケージ契約からタイトルごとの個別契約に変更することにより、経費節減を図ることとなった。同社が契約縮小の対象となったのは、予想される不足額の大きさから、契約額の最も大きい同社以外に選択肢が無かったからである。なお、部局の追加負担によって整備水準を維持する対応策も検討されたが、負担額の大きさから適用は困難との判断となった。

平成 27 年、為替レートなどの状況が好転しない中、5 月の役員政策会議において平成 28 年度 (2015 年) 分の学術情報基盤経費額について審議いただき、前年度と同額を措置いただける

ことになった。続いて9月の役員政策会議では、今後さらに縮小する Elsevier 社電子ジャーナルの対応策として「前払い型 Pay per View 方式」（受益者の一部負担により安価に論文を購入する制度）の導入について了承をいただいた。12月から試行し、平成28年4月には本格実施の予定である。

3. 電子ジャーナルアンケート調査

図書館では、Elsevier 社電子ジャーナル契約変更後の学内の教職員や学生等の利用状況と意向を調べるため、本年1～2月にアンケート調査を実施した。ここでその概要を報告する。回答総数は308名。そのうち76%が教員、16%が大学院生であった。

① Elsevier 社電子ジャーナルの契約変更に伴う影響

回答者の68%が、「利用できない論文があった」としている。影響を受けた活動は、「情報の収集」が76%、「論文の執筆・投稿・査読」が56%、「研究の実施」が51%であった。

② 契約外となった Elsevier 社電子ジャーナルの文献の入手方法

「あきらめた」が49%で最も多く、「図書館を通じて論文を取り寄せた」が31%、「リポジトリや著者サイトから入手した」が23%であった。

③ 大学への影響

「大学の研究レベルが下がる」が74%、「国際競争力・評価が下がる」が56%であった。

④ パッケージ契約の復活

「復活してほしい」が56%、「復活しなくてよい」が9%、「どちらともいえない・わからない」が31%であった。さらに、復活に必要な経費については「全学共通経費負担のみで契約すべき」が61%、「購入希望部局で負担しても契約すべき」が17%、「購入希望教員で分担して契約すべき」が8%であった。

4. 今後の電子ジャーナル : これからの見通し

平成28年に入っても厳しい状況が続いている。出版社側で継続的な値上げが続いていることに加え、特にここ数年は、為替レートが不安定で、変動幅も大きく、対策の立案自体が困難な状況になってきている。以下に、今後想定されるケースを挙げる。

① Wiley 社、Springer 社の電子ジャーナルパッケージ契約の変更

学術情報環境の整備にかかる所要額全体の増加から、大手2社のどちらか、もしくは両方のパッケージ契約を変更せざるを得なくなる可能性がある。その影響は大きいと予想される。

② 学術情報環境整備の枠組みの再構築

図書館運営費の削減に伴い、図書館からの学術情報環境整備への拠出も縮小せざるを得なくなる可能性がある。前項に加えて、研究科で選定してきた電子ジャーナルや、より専門的な電子ジャーナルが維持できなくなる場合、これまでの整備の枠組みを一から構築し直すことも必要であろう。

5. 最後に

残念ながら、Elsevier 社の電子ジャーナルの契約変更という大きな決断をしたにもかかわらず、今後も学術情報環境の維持は容易ではない見通しである。附属図書館では、種々の厳しい制約の下、引き続き最善の対応策を検討していきたいと考えている。今後とも、教員の皆様のご理解とご協力をお願いしたい。

(ごふく・あきお 附属図書館副館長)

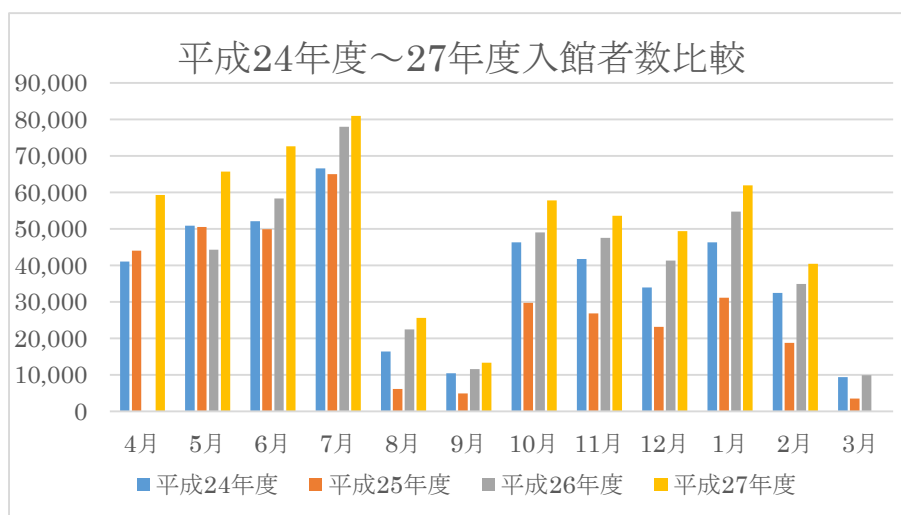
マスカット

中央図書館リニューアル後の利用状況について

中央図書館では、平成26年5月に本館を、平成27年4月に本館2階・3階をリニューアルオープンしました。平成26年にはラーニングコモンズやグループワークスペースの整備、語学学修スペースの拡充、プライベート空間を重視した独立型学習机を増設し、平成27年には、「学生・大学院生が、研究者や実業者の方など内外の多様な方々と交流することを通じて、自身の学修・研究への興味を喚起し、社会へ羽ばたく意欲を育み醸成する」をコンセプトにした、交流空間「サルトフロresta～飛翔の森～」を整備しました。

このリニューアル箇所の利用の好評を受けて、平成26年度の総入館者数は451,894人となり、平成27年度の総入館者数は現在（平成28年2月時点）、580,694人となっています。平成27年度7月には、月別入館者数が過去最多の81,004人を記録しました。

今後も、より充実した図書館サービスが提供できるよう、取り組みを進めていきます。



返却日事前通知メール送信開始および督促メール送信時間変更について

岡山大学附属図書館では、事前に返却予定日を知らせてほしいとのご要望を受け、2016年1月8日から返却予定日の前日午前8:00に通知メールをお送りすることとなりました。

また、返却予定日までに本を返却されなかった利用者にお送りしている督促メールについては、送信時間をこれまでの深夜0時から翌朝8:30に変更します。（システムの都合上、返却予定日が金曜日の場合、督促メールは土曜日ではなく日曜日に送信されます。）

シラバスコーナー新設について

中央図書館ではシラバスコーナーを西館1階に新設いたしました。このコーナーには、学期中の教養教育科目で使用される資料（シラバスに参考書として掲載されている資料）をまとめて配置しています。

原則として同じ資料を2冊配置し、うち1冊は貸出禁止としており、館内では常にご利用いただけるようになっています。是非ご活用ください。



中央図書館ミニ展示報告

中央図書館本館 1F ロビーにて定期的に附属図書館内の資料を紹介する「ミニ展示」を実施しています。ぜひご覧ください。2015年9月～2016年1月は下記テーマで実施しました。

- | | | |
|-------|--------|---------------|
| 平成27年 | 9月、10月 | 「宇宙へ挑む人」 |
| | 11月 | 「生協寄贈図書特集」 |
| | 12月 | 「LGBTについて」※ |
| 平成28年 | 1月 | 「正月特集」 |
| | | 「ブックハンティング特集」 |



12月のLGBTに関する展示は、学生相談室主催、附属図書館が協力し実施しました。LGBTとはレズビアン、ゲイ、バイセクシャル、トランスジェンダーの頭文字をとったもので、多様な性のあり方を持つ方々を指したことばです。LGBTの当事者は岡山大学にも在籍しており、当事者の皆さんを支援している学生相談室職員・ピアサポーター学生が、LGBTについて理解を深めてもらうため作成したパネルや図書のポップを展示しました。

学生・館長懇談会報告

中央図書館では、平成27年12月16日（水）に、学生9名の参加を得て、今年度2回目の学生館長懇談会を開催しました。懇談会は、学生の皆さんに図書館への要望を直接伺う場を設け、図書館環境を整備するために実施しているもので、毎年2回実施しています。

今回は、教育学部、農学部、環境理工学部の学部学生、大学院生の皆さんに、実際に利用する上で感じていることやご要望を伺い、館内環境についてのご指摘や、開館時間、図書館サービスの広報手段、駐輪場などについて要望をいただきました。

図書館では、今後も懇談会でいただいたご意見を運営に役立てていきたいと考えます。

池田家文庫絵図展報告

平成27年10月24日（土）～11月8日（日）に岡山シティミュージアムを会場に池田家文庫絵図展「京都と岡山藩」を開催しました。10月31日（土）には京都大学大学院文学研究科教授の横田冬彦氏による講演「近世京都の大名屋敷」を開催し、会期中に延べ1,940人の方にご来場いただきました。

岡山大学公開講座「池田家文庫絵図をもって岡山を歩こう パート2」報告

平成27年5月の第1回と第2回に続いて以下のとおりに開催しました。

第3回「後樂園を歩く」

開催日：平成27年10月10日（土）

場 所：岡山後樂園

講 師：岡山県郷土文化財団 万城あき氏

第4回「岡山城外堀に沿って寺町を歩く」

開催日：平成27年11月21日（土）

場 所：岡山市立岡山中央小学校～大雲寺交差点付近

講 師：岡山空襲展示室 猪原千恵氏

知好楽セミナー報告

図書館では、昨年度から、グローバル化時代を生き抜くための「知」と「心」を育む交流をコンセプトとした独自企画「知好楽セミナー」を実施しています。今年度後期は、趣向の違う2つのセミナーを実施しました。

第7回「学術的文章の書き方 -アカデミックライティング ワークショップ-」

日時：平成27年9月24日（木）13：15～16：30、

9月25日（金）10：00～11：30

場所：中央図書館 3F セミナー室

講師：神戸大学教授 近田政博氏

参加者：52名

高等教育を研究されている講師をお招きし、アカデミックライティングの基礎から応用までを、2日にわたり、ワークショップ形式でご教授いただきました。特に今回は、大学院生を主な対象とし、ライティングの中でも最も難しいとされている「問いの立て方」と「論証の組み立て方」の問題について、わかりやすく解説いただきました。

第8回「こだわりのマスターが語る奥深き珈琲の世界：違いの分かる岡大生になろう①」

日時：平成28年1月20日（水）15：15～17：00

場所：中央図書館 本館1階 ラーニングコモンズ

講師：「1518 珈琲」店長 佐藤幸男氏

参加：36名

今回から新しい企画「違いの分かる岡大生になろう」を始めました。これは、その道のプロの方に奥深い一流の世界を語っていただくことを通して、学生の皆様に、知識や視点を広げていただき、これからの人生を愉しく豊かにしていただくものです。

第1回は、岡山市内のスペシャルティコーヒー店の店長、佐藤幸男氏をお招きしました。豆の産地や焙煎方法など多岐に渡る内容の講演のほか、ご厚意により、おいしい珈琲の煎れ方までご指導いただきました。参加者からは「煎れ方で味が変わるのが興味深い」「珈琲の奥深さがわかった」とたいへん好評でした。

ブックハンティング実施報告

中央図書館では、平成27年11月25日(水)紀伊國屋書店クレド岡山店にてブックハンティング(学生選書ツアー)を実施しました。参加者8名の選んだ113冊の図書を購入し、参加者の推薦POPをつけたミニ展示も行いました。

資源植物科学研究所分館では、平成27年11月24日(火)喜久屋書店倉敷店にてブックハンティングを実施し、参加者7名(学生2名、教職員5名)の選んだ49冊の図書を購入しました。専門書から一般書まで幅広い資料が選択され、蔵書の充実と利用の増進に貢献しています。



平日早朝開館実施報告(中央図書館)

平日の開館時間の繰上げ(早朝開館)について、かねてより試験期間(7月~8月上旬、1月~2月上旬)に実施していましたが、学生の皆さんの強い要望を受け、今年度より4月9日(木)~8月5日(水)、10月1日(木)~2月9日(火)の授業期間平日に対象期間を拡大して実施しました。

実施した82日間で、繰上げを行った時間帯(8時00分~8時40分)の入館者は4,211人となり、より多くの皆様にご利用いただきました。

好評を受け、当館では来年度も早朝開館を実施する予定です。

オリエンテーション・データベース講習会実施報告

○中央図書館

中央図書館では平成27年9月~11月にオリエンテーション等を実施し、延べ127名の方にご参加いただきました。

オリエンテーション

実施日	対象	参加人数
9月14日	マッチングプログラムコース新入生	3
10月7日	新任教員	3
10月7日	放送大学学生	8
10月14日	新入生	7

ガイダンス

実施日	講習会名	参加人数
10月19日、10月30日、 11月2日、11月9日	図書館・文献検索ガイダンス (教員の依頼により授業・ゼミ等で実施)	88
10月28日、10月29日	文献入手講座	5

データベース講習会

実施日	講習会名	参加人数
11月11日、11月12日	Web of Science	13

○鹿田分館

鹿田分館では平成27年11月、平成28年2月にデータベース講習会を開催し、延べ27名の方にご参加いただきました。

データベース講習会

実施日	講習会名	参加人数
11月17日	PubMed	1
11月17日	CINAHL	2
11月20日	UpToDate	2
11月24日、27日	文献入手講座(秘書向け)	12
11月25日	医中誌、PubMed、Web of Science	8
2月19日	PsycINFO、CINAHL	2

教員からの寄贈図書リスト

次の方々から著書をご寄贈いただきました。ありがとうございました。

<中央図書館>

渡邊 満 [社会文化科学研究科]

日本とドイツの教師教育改革：未来のための教師をどう育てるか
——東信堂，2010.3

(373.7/N)

<鹿田分館>

近藤真紀子 [保健学研究科]

大島青松園で生きたハンセン病回復者の人生の語り：深くふかく目を瞑るなり、本当に吾ら
が見るべきものを見るため——風間書房，2015.12

(498.6/OO)

岡山大学出版会からの寄贈図書リスト

荒木 勝 [理事]

現代公共政策のフロンティア——岡山大学出版会，2015.9

(318/G)

会議

◆学外

- | | | | |
|-----------|---------------------------------------|----------|---|
| 27.10.26 | 平成 27 年度第 3 回岡山県大学図書館協議会研修委員会（於：岡山大学） | 27.12.18 | 岡山県図書館協会企画委員会（於：岡山県立図書館） |
| 27.11.5～6 | 第 51 回日本医学図書館協会中国四国地区総会（於：川崎医科大学） | 28.1.20 | 国立大学図書館協会賞専門委員会（於：広島大学） |
| 27.11.9 | 国立大学図書館協会秋季理事会（於：筑波大学） | 28.1.25 | 平成 27 年度第 4 回岡山県大学図書館協議会研修委員会（於：就実大学・就実短期大学） |
| 27.11.27 | 平成 27 年度中国四国地区国立大学図書館所管部課長会議（於：岡山大学） | 28.2.12 | 2015 年度第 1 回ホームページ担当ワーキンググループ会議（於：日本医学図書館協会中央事務局） |
| 27.12.11 | 平成 27 年度国立大学図書館協会中国四国地区実務者会議（於：島根大学） | | |

◆学内

- 27.11.2 平成 27 年度第 2 回附属図書館運営委員会

研修

- ・平成 27 年度中国地区女性係長セミナー
参加者 西村 朋子（10.6～8）
- ・平成 27 年度大学図書館職員短期研修
参加者 岩佐 美紀（10.6～9）
- ・第 56 回中国四国地区大学図書館研究集会
参加者 中 京子（10.8～10.9）
- ・機関リポジトリ中堅担当者研修
参加者 久磨 由美子（10.13～14）
- ・第 17 回図書館総合展
参加者 甲 彰一、難波 麻紀（11.11～12）
大園 隼彦（11.11）
- ・平成 27 年度学術情報リテラシー教育担当者研修
参加者 市地 七実子（11.18～20）
- ・第 2 回オープンサイエンスデータ推進ワークショップ
参加者 大園 隼彦（12.7～8）
- ・平成 27 年度 FD・SD 研修会
参加者 竹下 啓行、大園 隼彦（12.17）
- ・平成 27 年度岡山県大学図書館協議会研修会
参加者 市地 七実子（2.29）

編集委員から

今号が出る頃には試験期間を終えて、学生のみなさんはほっとしている頃でしょうか。1 月には知好楽セミナーでなんと図書館内のラーニングコモンズでコーヒーの美味しい入れ方についてのレクチャーがありました（お菓子を含めて館内で食べるのはダメですよ）。ご存知でしたか？図書館ではさまざまなセミナーを計画しております。普段あまり図書館を利用されない学生さんにも、ぜひ図書館を活用していただけると嬉しいです。良いアウトプットのために是非良いインプットを！（Y.K.）